

社会科学特論 (Social Science)		5 年・前期・2 学修単位 (α)・選択必修 5 学科共通・担当 竹原信也他	
〔準学士課程 (本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (1)			
<p>〔教育方法等〕</p> <p>●概要</p> <p>本講義は COC+における地域創生教育の一環として行われる。グローバリゼーションの進展に伴い経済・文化の均質化と多様性の喪失が懸念されている。国内に目を転じてみれば、都市化が進行し、一極集中と地域社会の疲弊、過疎化が問題となっている。この点、どのようにして様々なアクターが相互協力しながら持続可能な地域運営・発展をしていくのか、これが今日の現代社会の重要なテーマになっている。では技術者はどのようにして地域社会の持続的な発展に携わっていけばよいのだろうか。本講義では、工学的な知識をもつ技術者がどのようにして地域社会の問題にアプローチしていけばよいのか、このことについて、(1) 地域社会を理解するための最低限必要な知識を学習し、(2) (2) 地域・場所をイノベーションしていくための関わり方 (態度・使命感) を学習する。最後に (3) グループワークを通じて実際に場所・地域をイノベーションするためのプランを構想する。講義を通じて世界の中で、地域をイノベーションしていくことの重要性を共有していきたい。</p> <p>●授業の進め方と授業内容・方法</p> <p>原則として講義形式の授業を行う。必要に応じて、視聴覚教材を使用する。また外部の特別講師を招いて講義も予定している。授業内容は、「地域」「技術者」をキーワードに、いくつかのテーマについて学習をおこなう。講義を通じて、地域社会の見方・捉え方について基礎的な知識を習得する。また事例演習を通じて知識を活用するための技術 (コミュニケーション、グループワーク、デザイン) を習得する。事例演習についてレポートの作成・提出を求める。</p> <p>●注意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連科目 地理、歴史Ⅰ・Ⅱ、政治経済、現代社会と法、技術者倫理 (専)、地域と文化 (専) ・学習指針 受講者が将来、技術者として、社会人として生活していくことを念頭におく。 地域の課題を技術者として解決していくために必要な基礎知識の理解を主眼に授業を進める。 地域の課題解決を考えるグループワークを行うので、主体的に参加してほしい。 ・自己学習 授業時間以外でも予習・復習を行うこと。 学習目的を達成するために、課題やレポート提出を求める。 			
<p>〔教科書〕 なし</p> <p>〔補助教材・参考書〕 参考資料、プリントを適宜配布する。</p>			
<p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グローバリゼーションの進展と地域の持続可能な発展の重要性を理解し、説明できる。 2. 地域の課題解決における技術者の重要性を理解し、説明できる。 3. 地域経済を測る主要な指標を理解し、説明できる。 4. 地域政策に関する基礎知識を理解し、説明できる。 5. 地域政策における主要なアクター (住民・住民団体、NPO、企業、行政等) とその機能を説明できる。 6. 地域の課題を解決するための方法 (SWOT 分析、2 軸法等) を理解し、活用できる。 			
<p>〔評価割合〕</p> <p>定期テスト (60%) 課題レポート (20%)、グループワーク・発表 (20%)</p>			

授業計画

	週	授業内容・方法	到達目標	自己評価*
前期	1 週	ガイダンス	講義の目的・概要を理解し、説明できる。	
	2 週	グローバリゼーションと地域	グローバリゼーションの進展と地域への影響を理解し、説明できる。	
	3 週	持続可能な地域の発展	持続可能な地域の発展の重要性を理解し、説明できる。	
	4 週	地域政策のアクター	地域政策における主要なアクター（住民・住民団体、NPO、企業、行政等）とその機能を説明できる。	
	5 週	地域経済とその指標	地域経済とその指標について基礎知識を理解し、説明できる。	
	6 週	特講（1） 地域政策と技術者	特別講義を通じて、地域の課題解決における技術者の役割・重要性を理解し、説明できる。	
	7 週	自治体政策と法	地域政策に関する法律の基礎知識を理解し、説明できる。	
	8 週	特講（2） 奈良と建築	特別講義「建築技術と奈良」を通じて、地域の価値を再発見し、考察することができる。	
	9 週	日本の自治体政策	明治維新後の我国の自治体政策の過程を学習し、その特徴と課題を説明できる。	
	10 週	特講（3） 奈良と文学	特別講義「近代文学者の奈良への眼差し」を通じて、地域の価値を再発見し、考察することができる。	
	11 週	グループ演習（1）	「地域・場所のイノベーション」をテーマに具体的なアイデアをグループワークによって創出することができる。その過程に置いて、グループワークにおけるコミュニケーションの重要性を理解している。	
	12 週	グループ演習（2）	「地域・場所のイノベーション」をテーマに創出したアイデアを整理し、アイデアを具体的に実行するための行動計画を立てることができる（アクションプラン・事業計画）。	
	13 週	グループ演習（3）	「地域・場所のイノベーション」をテーマに創出したアイデアや事業計画を整理し、効果的に聞き手に伝えることができる（プレゼンテーション）。	
	14 週	グループ演習（4）	グループワークのプロセス（アイデアの創出とアクションプラン、プレゼンテーション）を振り返り、成果と課題を抽出することができる。成果と課題を踏まえた上で、改善案を考察・説明できる（振り返り）。	
	15 週	期末試験	授業内容を理解し、試験問題に対して正しく解答することができる。	
	16 週	試験返却・解答	試験問題を見直し、理解が不十分な点を解消する。	

* 4：完全に達成した， 3：ほぼ達成した， 2：やや達成できた， 1：ほとんど達成できなかった， 0：まったく達成できなかった。